会　　議　　録

会　議　名	第５回山陽小野田市ＧＸ推進協議会	
開催日時	令和８年１０月６日(火曜日)１０時００分から１１時４５分	
開催場所	市役所本庁舎３階大会議室	
出　席　者	和氣会長、高橋副会長、塩田副会長、竹永委員、池上委員、中村委員、浦江委員、有田委員、西岡委員	
欠　席　者	吉長委員	委員数　　１０名 出席者数　　９名
オブザーバー	山口県産業労働部産業脱炭素化推進室 岡田主任技師	
事務担当課及び職員	（市民部環境課） 光井部次長兼課長、湯浅主幹、宮本主幹、佐々木技師 （経済部商工労働課） 工藤部次長兼課長、原野課長補佐、河口主任主事	
会議次第	１　開会 ２　会長挨拶 ３　山陽小野田市ＧＸ推進アクションプランに係る令和７年度及び８年度進捗状況報告について ４　次回の協議会等について ５　その他（水素サプライチェーン構築実現セミナーの案内） ６　閉会	
議事内容	３　令和７年度及び８年度進捗状況報告について （竹永委員） ・包括連携協定会議でアンモニアの新製法による新規事業の検討はされているか。 ・石油の備蓄タンクをアンモニアの備蓄タンクに変えるのは簡単なことか、それとも難しいか。 ・カーボンリサイクル技術実装推進事業とはどんなものか。 （事務局） ・この内容について、特に会議では出ていない。 ・そのままアンモニアの備蓄タンクに変えることは難しい。 ・発生したCO2から排気ガスを取り入れ、そこからCO2を抽出する機械があり、これを利用する企業がサプライチェーンを目指す事業となっている。	

	（竹永委員） ・出光興産がアンモニア新製法について取り組んでいるが連携はあるのか。また、宇部港と連携すると利点はあるか。 （有田委員） ・現時点でアンモニア船は有明の造船所で製造されており、日本郵船として運航もしている。将来的には小野田港や宇部港でもできると考えているのではないかと私は思う。 （事務局） ・イメージ図は構想段階として、今後の予定を示したものである。 現状、宇部港で出光興産がアンモニアの製法に取り掛かるということはない。今後どのように活用するかはこれからの検討事項となる。 （竹永委員） ・ＧＸ戦略地域について、市は、県内の他港と関係はあるのか。 （事務局） ・ＧＸ戦略地域で県内３つのコンビナートエリアがどう連携を図るかは大事な部分となる。国の認定を受けた後は、具体的に何ができるか、企業同士の動きが主になるが自治体として、どのように支援ができるかなど考えていくことになる。 （竹永委員） ・サストレの取組は年間どのくらい実施するのか。 ・今後、毎年行う予定なのか。 ・予算はどのぐらいか。 （事務局） ・45 分事業が 30 コマ程度ある。 ・本市としては、できる限り続けたい。 ・約 500 万円。 （竹永委員） ・適応策のハード面の取組で、ライフラインの地中化は非常に有効と考えている。市内のライフライン地中化の割合はどれぐらいか。

	（事務局） ・わずかであるが進んでいると思う。何%かまでは把握していない。 （塩田副会長） ・資料のページ番号をつけてほしい。 ・施設の照明の LED 化について、市の公共施設が全体でいくつあり、そのうちいくつが LED になっているかを記載すると分かりやすい。 （事務局） ・ページ番号をつけるようにする。 ・現時点で半分程度が LED 化となっている。 （塩田副会長） ・コンビナート企業連携検討会議の件でロードマップ作成を現在中断したとあるが、今後どのような形で形成するのか計画はあるか。 （事務局） ・ＧＸ戦略地域選定後、事業と照合し、ロードマップを作成する。 （塩田副会長） ・港湾脱炭素化推進計画に該当する二酸化炭素排出量は 2013 年度どの程度で、現在はどうなっているのか。 （事務局） ・推計値になるので、港湾に関する数字を示すのは難しい。一方で、今後カーボンニュートラルポートが進むと削減が見込めると思う。 （塩田副会長） ・アクションプランは具体的にやらないといけない。数値がいくらでどの数値を気にするのかなど把握する必要がある。 （塩田副会長） ・ぶちエコやまぐち宣言をしていない市の施設の把握、分析もする必要がある。

	（事務局） ・宣言しないといけない施設、する必要がない施設など分析をしていく。 （塩田副会長） ・生ごみ処理機の予算はいくらか。今後も推進していくか。 （事務局） ・予算は 16 万 5 千円で、今後は予算増額をしたいと考えている。 （塩田副会長） ・ごみの減量化のため、是非、増額してほしい。 ・緑のカーテン写真展の応募が多くない。参加者が増えるような取組を検討してほしい。 （事務局） ・応募者全員に啓発物品の配布やコンテストの開催など、工夫した取組を検討していきたい。 （塩田副会長） ・市民１人１日当たりのごみ排出量は、このままだと目標値達成が困難になると思う。市はごみの成分や種類を把握しているか。 （事務局） ・令和 8 年度はナフサの関係でごみ袋の供給が減少したため大分減っている。 （塩田副会長） ・外的要因では減少は厳しい。生ごみ処理機の配布をするのも１つの対策。今後検討してほしい。 （有田委員） ・環境課で以前ダンボールコンポストを取り扱っていたが、今後見直しされたらどうか。 （事務局）

	・消費者の会と協力し取り組んでいたが、取扱が大変で全世代に普及していない。補助金は継続しているので、改めて啓発も検討する。 （塩田副会長） ・森林面積の計算方法で、一時的に伐採したらそれは森林面積から減った形になるか。 （事務局） ・県が調査した数値なので、こちらからはお答えしづらい。 （竹永委員） ・緑地面積と森林面積の違いはあるのか。 （事務局） ・法律の管轄が違う。工場立地法による緑地面積と森林法による森林面積の違いがある。 （塩田副会長） ・なぜ吸収源対策において、緑地面積ではなく森林面積なのか。 （事務局） ・樹木の種類や樹齢などを加味して計算しているので森林面積が妥当である。 （塩田副会長） ・水質の環境基準達成率において、どの項目で達成率が下がったか。 （事務局） ・海域の COD（化学的酸素要求量）が 9 回、T-P（総リン）が 3 回、湖沼の COD が 3 回の全 15 回基準値超過があった。検体数も 686 検体から 278 検体へと全体数が減少しているため下がった。 （塩田副会長） ・環境基準を達成するための目標値なので、基準値超過しても環境に大きな悪影響はないと解釈するなら、目標値として掲げる必要はないのではないか。

	（事務局） ・環境基準を達成することが行政の大きな目標であるので、目指せるように調査を重ねていきたい。 ５　その他（意見交換） （塩田副会長） ・地球温暖化対策地域協議会として、市民への啓発活動が大事になってくる。今後も住民意識の向上に向けて、取り組んでいきたい。 （竹永委員） ・ＧＸ推進協議会は毎回活気がある。今後の取組に期待したい。 （池上委員） ・大学では教育の観点として、学生にＧＸについて教育している。 もう一つは、地球温暖化関連を研究する先生がおり、今後の共同研究につながる取組を増やしていけると思う。 （中村委員） ・小野田エリアの企業に関連資料の配布を引き続き行い、啓発活動を実施し、目標数値達成ができるように推進していきたい。 （浦江委員） ・会報等で企業にＣO2 チェックシート等を案内していく。 （有田委員） ・地球温暖化対策地域協議会委員として、出前講座でＳＡＦ（持続可能な航空燃料）についても啓発し、今後地域の人がますます取り組んでもらえるようにしていきたい。 （西岡委員） ・食品ロスについて、紙芝居でいろんな団体に啓発しているが、団体を選ぶことが難しい。３０１０運動もご存知だと思う。 （高橋副会長） ・ＣO2 の削減に対しては、製造業を主体とした大企業がメインとな

	って行うと思うが、一番大事なところは市民の意識づけと行動になると思う。引き続きみなさんよろしくお願いいたします。 （和氣会長） ・市民部としては市民への周知啓発が一番重要となってくる。サステナトレセンで小学生が大人と一緒に取り組むことで良い影響が期待できるのではないかと思う。アクションプランで掲げた取組を着実に実行し、進捗を確認しながら、必要に応じて取組の見直しや改善を図っていくことが重要だと考える。